

〔研究ノート〕

津軽・下北の近世海運関連石造物

関根達人

はじめに

平成二八年、全国北前船セミナー開催三〇周年記念大会が、寄港地の一つ石川県加賀市で開催された（全国北前船研究会二〇一六）。翌年には、「江差の五月は江戸にもない―ニシンの繁栄が息づく町―」（北海道江差町）と「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間―北前船寄港地・船主集落」（山形県酒田市ほか）が日本遺産に同時認定され、北前船に再び注目が集まっている。

本州北端に位置する津軽・下北地方には、北前船の北のターミナル松前・江差・箱館に向かい津軽海峡を渡海するための寄港地が、日本海・陸奥湾・津軽海峡に面して存在していた。また、日本海と太平洋の接点である下北地方には、北前船に加え、東廻り航路の足跡も残されている。日本遺産の認定に伴い、各地で北前船に関連する町おこしが企画されつつある。広域的広がりを持った北前船は、関連資産の調査・研究が十分なされれば、新たな地域間交流を生む起爆剤になりうるが、青森県内では、関連資産の基礎的調査は必ずしも十分行われているわけではない。歴史的な裏付けが伴わず単に北前船のイメージだけで町おこしを企画し

たとしても、長続きせず、また十分な効果も得られないであろう。

本稿で取り上げる海運により運ばれた石造物には年号・地名・人名などが刻まれており、海運の歴史的展開や海運による地域間交流を理解する上で重要な歴史資料といえる。しかし県内では笏谷石製狛犬を除けば、それら海運関連石造物が論じられることはこれまでほとんどなかった。

筆者は、科学研究費基盤研究B「近世墓と人口史料による社会構造と人口変動に関する基礎的研究」（平成一九～二二年度・基盤研究A「中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究」（平成二二～二五年度）、基盤研究A「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」（平成二六～三〇年度）により、北海道ならびに青森県から山口県までの日本海沿岸において海運関連の近世石造物調査を行ってきた（関根二〇一三・二〇一八b、関根編二〇一二・二〇一三・二〇一六）。

本稿では、青森県津軽地方と下北地方で確認した近世海運関連石造物を取り上げ、海運の歴史的展開と海運による地域間の結びつきを論じる。

なお、本報告は、筆者を研究代表者とする科学研究費基盤研究A「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」（課題番号二六二四四〇四四）の研究成果の一部を含む。

一 調査の方法と石造物の概要

下北・津軽地方に所在する江戸時代の海運関連石造物のうち、銘文に他の地方の地名が刻まれているものを対象として調査を行った。したがって福井県産の笏谷石製の石造物のように日本海海運によって運ばれてきたことが明らかのものであっても、銘文で他地方の地名が確認できないものについては、調査対象から除外した¹⁾。

はじめに自治体史や郷土史図書を参照し対象となりそうな石造物を抽出した上で、北前船寄港地の寺社を訪ね歩き、該当する石造物の所在確認を行った。その結果、津軽海峡・陸奥湾沿岸・日本海沿岸の二ヶ所で計八七基の近世海運関連石造物を確認した(表1・図1)。

地域別では下北が七ヶ所で六六基、野辺地が五ヶ所で六基、青森が三ヶ所で三基、今別が一ヶ所で二基、鱒ヶ沢が一ヶ所で二基、深浦が一ヶ所で七基、岩崎が一ヶ所で一基となる。下北では恐山菩提寺とその参詣道に最も多く、他に北前船の寄港地である大畑・田名部・川内・脇野沢・佐井で近世海運関連石造物が確認された。

種類ごとの内訳は、石灯籠が五〇基と最も多く、狛犬と丁石が各八基、手水鉢六基、鳥居五基、観音三基と続き、他に五輪塔・石卒塔婆・仏舍利塔・玉垣・石段・石橋が各一基である(図2)。

年代別では、慶長三年(一五九八)の年号が刻まれた深浦町円覚寺の笏谷石製狛犬形鎮子(20a)が最も古い。次いで一六五〇・六〇年代には今別八幡宮(18a・18b)と青森市小金山神社(16)に笏谷石製狛犬がみられる。その後一七八〇年代までの間で確認できたのは、

深浦町円覚寺にある寛延二年(一七四九)銘の花崗岩製手水鉢(20b)のみで、県内で海運関連石造物が増えるのは一七九〇年代以降である(図3)。一七九〇年代以降は幕末まで連続的に海運関連石造物がみられるが、年代的には一七九〇年代と一八四〇・五〇年代にピークがあり、一八六〇年代には数が減少している。

石材としては、瀬戸内産とみられる花崗岩が最も多く、地元産の輝石安山岩、福井市足羽山産の笏谷石と続き、他に和泉砂岩や石川県金沢市内から産出する戸室石と呼ばれる安山岩が確認された。笏谷石は少ないながらも一六世紀末から一九世紀まで使われ続けているのに対して、瀬戸内産とみられる花崗岩が使われだすのは一八世紀中頃以降で、一七九〇年代以降に急増する。一方地元産の輝石安山岩は一八四〇〜六〇年代と使用が遅れる。

二 石造物の製作地

今回調査したなかで石工銘を有する石造物が八基ある。内訳は大坂石工三基、備後尾道石工・長州赤間関石工・越前福井石工・加賀金沢石工が各一基と地域不明の石工一基である。

大坂石工の作品は、大畑八幡宮にある御影屋新三郎の石灯籠(1a)と狛犬(1b)、川内八幡宮にある小島屋半兵衛の石灯籠(6a)である。

御影屋新三郎は大坂の西横堀炭屋町を本拠とする。御影屋新三郎の作品は、大阪府貝塚市森の稲荷神社にある宝暦一〇年(一七六〇)銘の石灯籠(天岸一九七九)を最古に、住吉大社の文久二年(一八六三)年銘

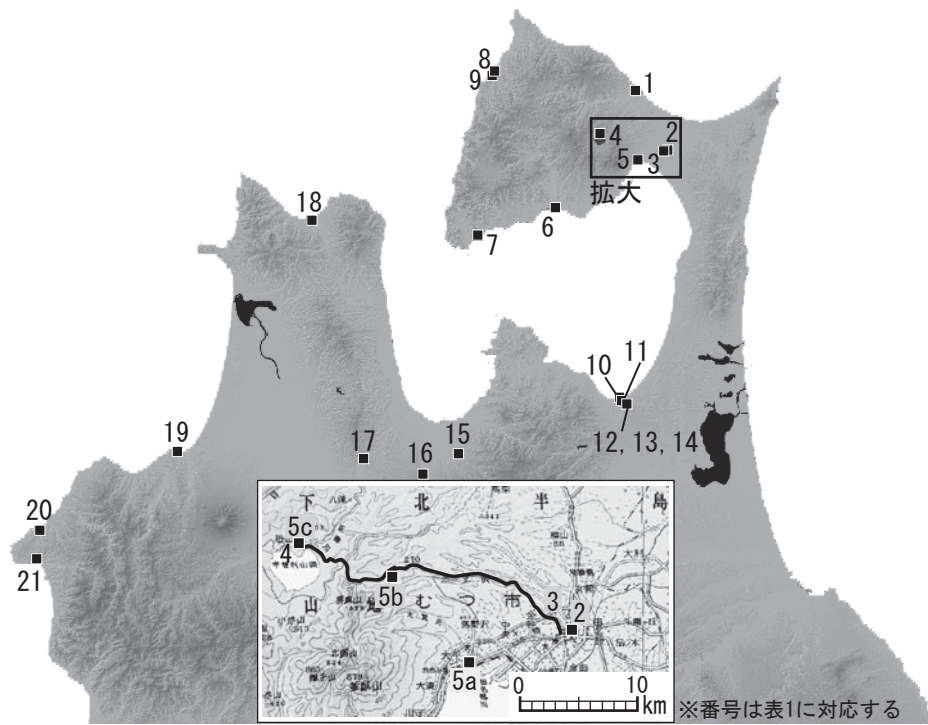


図1 津軽・下北地方の近世海運関連石造物分布図

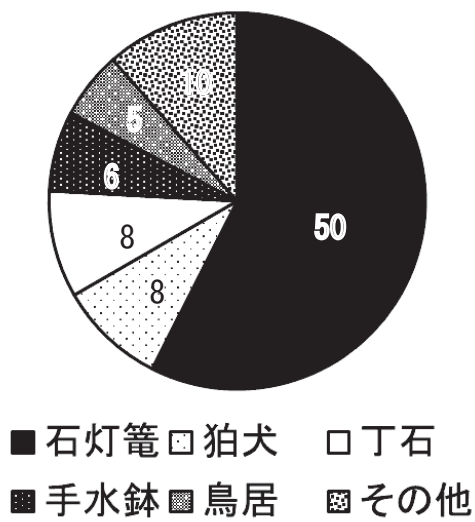


図2 津軽・下北地方の近世海運関連石造物の種類別比率

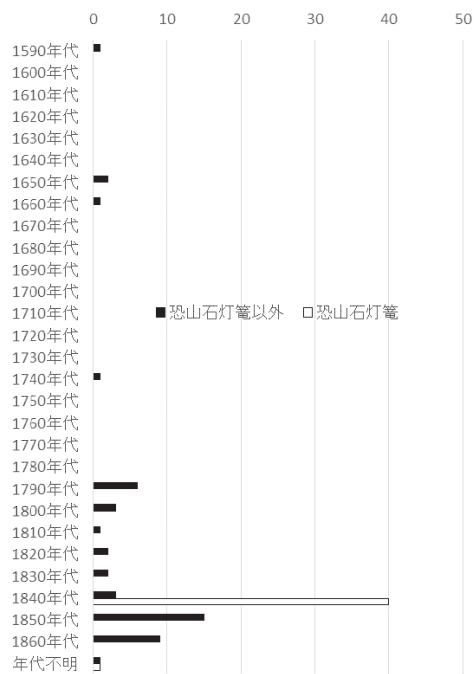


図3 津軽・下北地方の近世海運関連石造物の年代別造立数

奉納者	石工	願文など	備考	文献など
世話人 堺屋伊惣治 八谷弥八郎 取次人 大坂 河内屋與三兵衛 堺屋伊惣治 堺屋清兵衛 黄金屋小七郎 樋口[土中] 関谷[土中] 磯谷[土中] 小路口五郎治 扇谷 [土中] 北村屋[土中] 澤田[土中]	大坂炭屋町 石工 見加げや新三郎	御神燈	下台石が半分ほど 土中に埋まっており、 人命の一部判 読不能	鳴海 1977 20160612 関根調査
世話人 堺屋伊右衛門 八谷弥八郎 取次 大坂 河内屋與三兵衛 堺屋伊惣治 黄金屋小七郎 山谷長治郎 内海屋房吉 小路口五郎治 堺屋清兵衛 横金蔵 北村作右 衛門 新保屋忠蔵 安濃村 飛内屋善兵衛 大平村 奥川嘉七 關屋仁右衛門 別當 本現代	石工 大坂炭屋町 見加げや新三郎	奉献		鳴海 1977 20160612 関根調査
寄進者 大坂下轉旁松太田丁 通功丸堺屋平助 南部田名部 熊谷又兵衛正賢 山本理左衛門世哉 熊谷與兵衛正喬		総鎮守 御武運長久 五穀成 就 御町中繁昌祈所 家内安 全 子孫繁栄 船中安全 海 上無難 山中仙鶴 無難志願 成就高禱 繁昌嘉運 増長祈 所 奉納石鳥居一基	一部後補	鳴海 1977 20170611 関根調査
松前福山 天屋善兵衛				澤田 2001
松前福山 庄内屋由左エ門				澤田 2001
松前荒谷 庄内屋安左エ門				澤田 2001
松前江差 福井又兵衛				澤田 2001
松前福山 天屋勘太郎				澤田 2001
松前福山 油屋衆太郎				澤田 2001
江州日吉 辰巳屋松兵衛				澤田 2001
江州日吉 辰巳屋松兵衛	石匠 音松亀吉	道程碑		20170611 関根調査
施主 野村利助 運送船 神通丸庄兵衛		奉献		20170611 関根調査
田名部 世話人 熊谷又兵衛政賢 菊池重右衛門政□ 城岡定 佐々木治次郎亮安		天下泰平 国土安穩		20170611 関根調査
施主 奥州仙台社唐郡石巻湊本町 小松屋新吉		先祖代々	妙蓮不染信女	20170611 関根調査
大坂橋屋八幡丸船頭 讃州塩飽二代目尾上吉五郎		左右面キカラバア		20170611 関根調査
願主 西蝦夷地ヲタルナイ 惣番人中 世話人 岡村庄兵衛 積船 大坂 松寿丸 橋屋吉五郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下 願主 松本庄七 世話人 川内 甲屋新三郎 積船 大坂 松寿丸 橋屋吉五郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 西蝦夷地フルビラ 番人中 願主 山田善治 積船 大坂 松寿丸 橋屋吉五郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 川内 新谷良八 近江屋吉郎右エ門 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 加州宮腰 錢屋喜太郎 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下 山田善治		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下 山田文右衛門 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下 熊谷藤十郎 積船 加州大野 實吉丸 丸屋武平		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前 藤田與兵衛 藤田常吉		四拾八燈		むつ市 1986
願主 能州和崎 稲本屋名右衛門		四拾八燈		むつ市 1986
願主 川内 近江屋金次郎 佐渡屋菊蔵 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下西館町 阿部喜兵衛		四拾八燈		むつ市 1986
願主 加州宮腰 平水屋長次郎 上賀屋孫四郎 金屋彦兵衛 上賀屋善六 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下 石戸屋権次郎 塩飽 奥山勘三郎 積船 山本 豊栄丸		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下川原町 黒澤直右衛門		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下轉智石町 磯谷久五郎 積船 山本 豊栄丸		四拾八燈		むつ市 1986
宮古 佐々木駒吉 牛瀧村 荒川才助 松前 柏木政吉 赤川村 佐々木彌七 松前 長永福蔵		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下 山谷和左衛門 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 加州宮腰 錢屋喜太郎 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 泉州堺 平野屋吉兵工 田中屋元蔵		四拾八燈 海上安全		むつ市 1986
願主 松前城下 山谷和左衛門 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前箱館 山田寿兵衛 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
塩飽 福屋吉五郎 同 嘉三郎 同 四良兵衛 大坂「山に中」嘉兵衛		四拾八燈		むつ市 1986
越前国三国 久末長右衛門	石工 越前福井 井上市右エ門	四拾八燈	滅失 奉納者銘は 「新撰陸奥国誌」に よる	鳴海 1977 むつ市 1986 三井 2006
願主 松前城下 原田永左衛門 卯木屋徳次郎 福井官三郎 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下轉智石町 磯谷久五郎母 積船 豊栄丸		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下 山口屋基八 同 中嶋團四郎 積船 豊栄丸		四拾八燈		むつ市 1986
願主 西蝦夷地ヲタルナイ場所 濱中 世話人 川内 岡村庄兵衛 積船 豊栄丸		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下端立町 熊谷左善女 積船 山本 豊栄丸		四拾八燈		むつ市 1986
孝悌智明童子 松前 伊達 正徳丸 善治		四拾八燈		むつ市 1986
大坂 大和屋衆吉 大和屋傳吉 兵衛 和泉屋彌八 川内 三國屋平兵衛 田名部 山本清五郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前箱館「山に田」店 覚兵衛 順兵衛 甚蔵 久兵衛 文太郎 積船 山本 豊栄丸 久次郎 佐井 山崎重治 大畑 上林平右エ門 五戸 久保助八 福岡 福本屋長松		四拾八燈		むつ市 1986
願主 西蝦夷地フルビラ 番人中 世話人 松前城下 山田善治 積船 大坂 松寿丸 橋屋吉五郎		四拾八燈		むつ市 1986
仙臺水澤 毅田屋七平 三郎治 金蔵 田名部 佐藤庄左エ門		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前城下 庄内屋由左衛門 積船 加州大野 實吉丸 丸屋武平		四拾八燈		むつ市 1986
松前 支配人 有蔵 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
願主 松前箱館「山に田」店 覚兵衛 順兵衛 忠七 賢兵衛 勇助 積船 山本 豊栄丸 久次郎		四拾八燈		むつ市 1986
塩飽 世話人 大坂「山に中」嘉平衛 橋屋吉五郎 橋屋嘉三郎 橋屋四郎兵衛		四拾八燈	滅失?所在不明	むつ市 1986
願主 惣番人中 積船 大坂 松寿丸 世話人 川内 岡村庄兵衛		四拾八燈	滅失?所在不明	むつ市 1986
願主 大畑 小笠原小三郎 同 小路屋五郎吉 松前 藤田宇吉 同大沢村 中村亦蔵		四拾八燈	滅失?所在不明	むつ市 1986
願主 松前 伊達手船 船頭善治船中 積船 直船 正徳丸		四拾八燈	滅失?所在不明	むつ市 1986
願主 奥本友□三 運送寄附 大坂 松徳丸 与助		為衆病悉除 心身堅固	和泉砂岩	立花 1991 20170611 関根調査
施主 干歸問屋 大坂北堀江五丁目 若狭屋宗助			和泉砂岩	立花 1991 20170611 関根調査
運送寄附 大坂 松徳丸 与助		家内安全 志願成就 二世安楽 為先祖代々諸精 靈		立花 1991 20170611 関根調査
世話人 菊池立達 吉田屋松兵衛 運送船 福吉丸 與八郎	大坂西横堀 石匠 小島屋半兵衛		奉納年月日は「吉 田屋文書」による	鳴海 1977 富岡 1981
願主 能代屋金右衛門 加州宮腰 錢屋與八郎 世話人 福萬屋大兵工内		奉納 漱水		鳴海 1977

表1-a 津軽・下北地方の近世海運関連石造物

番号	寺社等名称	所在地	種類	法量 (cm)			石材	奉納年
				高さ	幅	厚さ		
1a	大畑八幡宮	青森県むつ市大畑町新町 129	石灯笼	300	126	126	花崗岩	安政6(1859)年8月15日
1b	大畑八幡宮	青森県むつ市大畑町新町 129	狛犬	160	105	105	本体:和泉砂岩 台石:花崗岩	文久元(1861)年8月15日
2	田名部神社	青森県むつ市田名部町 1-1	鳥居	365	480	33	花崗岩	寛政12(1800)年7月吉日
3a	恐山道丁塚(1丁ほか26基)	青森県むつ市	丁石	71	19	19	凝灰岩	安政6(1859)年6月
3b	恐山道丁塚(9-10丁)	青森県むつ市	丁石	71	19	19	凝灰岩	安政6(1859)年6月
3c	恐山道丁塚(12丁)	青森県むつ市	丁石	64	19	19	凝灰岩	安政6(1859)年6月
3d	恐山道丁塚(16丁)	青森県むつ市	丁石	74	19	19	凝灰岩	安政6(1859)年6月
3e	恐山道丁塚(23丁)	青森県むつ市	丁石	57	19	19	凝灰岩	安政6(1859)年6月
3f	恐山道丁塚(32丁)	青森県むつ市	丁石	63	19	19	凝灰岩	安政6(1859)年6月
3g	恐山道丁塚(81丁ほか28基)	青森県むつ市	丁石	66	20	18	凝灰岩	文久3(1863)年6月
3h	恐山道丁塚(113丁)	青森県むつ市	丁石	85	24	19	凝灰岩	文久3(1863)年6月
4a	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	狛犬	113	72	55	花崗岩	文久2(1862)年6月
4b	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	廻国供養塔	110	57	57	安山岩	寛政2(1790)年6月24日
4c	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	五輪塔	150	90	80	安山岩	寛政8(1796)年4月6日
4d	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石卒塔婆	215	21	21	花崗岩	文政11(1828)年
4e1	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e2	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e3	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e4	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e5	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e6	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	輝石安山岩	弘化3(1846)年6月
4e7	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e8	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永元(1848)年6月
4e9	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	輝石安山岩	弘化3(1846)年6月
4e10	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	輝石安山岩	弘化3(1846)年6月
4e11	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e12	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	輝石安山岩	弘化3(1846)年6月
4e13	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e14	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e15	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	輝石安山岩	弘化3(1846)年6月
4e16	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e17	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e18	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e19	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永元(1848)年6月
4e20	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永元(1848)年5月
4e21	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e22	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e23	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	年号なし(1840年代)
4e24	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	285	138	138	笏谷石	年号なし(石工から19世紀初頭と推定)
4e25	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e26	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e27	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e28	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e29	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e30	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e31	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	年号なし(1840年代)
4e32	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e33	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e34	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	輝石安山岩	年号なし(1840年代)
4e35	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永元(1848)年6月
4e36	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e37	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	嘉永2(1849)年6月
4e38	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e39	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e40	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
4e41	曹洞宗伽羅陀山菩提寺	青森県むつ市田名部字曾利3-2	石灯笼	163	70	70	花崗岩	弘化3(1846)年6月
5a	恐山大湊参道三十三観音3	青森県むつ市大平町 24	持経観音	119	40	37	本体:砂岩 台石:花崗岩	文久元(1861)年6月17日
5b	恐山大湊参道三十三観音22	青森県むつ市田名部字曾利	葉衣観音	119	40	37	本体:砂岩 台石:花崗岩	文久元(1861)年6月17日
5c	恐山大湊参道三十三観音33	青森県むつ市田名部字曾利	瀧水観音	105	52	49	本体:凝灰岩 台石:花崗岩	文久元(1861)年6月17日
6a	川内八幡宮	青森県むつ市川内町川内 324	石灯笼 六角台座	130	110	110	花崗岩	安政4(1857)年8月吉日
6b	川内八幡宮	青森県むつ市川内町川内 324	手水鉢	62	114	54	花崗岩	文久2(1862)年8月吉日

奉納者	石工	願文など	備考	文献など
施主 徳實丸 與治右衛門 同 松右衛門 同 船中			火倉から上欠損	20170612開根調査
静海山 常法院 献主 西田四郎兵衛 能登屋與左エ門 世話人 加州宮藏 薬子屋太兵衛	加州金城 御扶持人工工 浅野権三郎 浅野権右工門	漱水		船野沢村史調査団 1983 木越2001
願主 角屋藤治郎 運送船 加州 銭屋與八郎				船野沢村史調査団 1983 木越2001
ルルモツハ 運上屋 支配人 四良兵工 平四良 吉之助 常吉 ルルモツハ 惣番人中 同出村 橋浦三五良 ルルモツハ□□ 久右エ門 マシケ 運上屋 支配人 善平工 トママイ 運上屋 アツケシ 會所 支配人 文太良 通辞 嘉右工門 助役 弥三良 惣番人中 センホウシ 辰五郎 クスリ 會所 支配人 兵治良 通辞 嘉吉 改役代 又太郎 惣番人中 シラヌカ 豊五良 マクハツ石松 龜松 ヲコノナイ 源藏 トウフ井 吉兵衛 トカチ 會所 支配人 武兵衛 熊七 帳役 半之文 通辞 辰藏 惣番人中 サル 宗太郎 ホロイツミ 會所 支配人 喜四郎 善吉 惣番人中 シヤマニ 會所 支配人 和左工門 帳役 左七 通辞 松郎 惣番人中 權六妻 ウラカフ 會所 支配人 藤十良 帳役 金治良 通辞 忠藏 惣番人中 ミツツシ 會所 支配人 重治良 帳役 金兵衛 通辞 徳五良 惣番人中 シツナイ 會所 支配人 徳治良 帳役 重吉 通辞 榮左工門 惣番人中 ウラカフ 會所 支配人 作藏 帳役 兵市 アツツ又藏 サル 會所 支配人 基藏 帳役 文吉 通辞 長吉 惣番人中 ウツフツ 會所 支配人 又兵衛 帳役 幸助 通辞 基三郎 惣番人中 會所 支配人 与惣治 帳役 宇兵衛 惣番人中 ホロヘツ 會所 支配人 代 通辞 兼 宿吉 惣番人中 エトモ 會所 支配人 源藏 帳役 政治 惣番人中 ウス 會所 支配人 庄兵衛 通辞 代 重五良 惣番人中 アフト 會所 支配人 代 富太良 惣番人中 レフンケ 榮八 ヤムクシナイ 會所 ラシヤンヘ 會所 茂左衛門 伊八 惣番人中 箱館神明町 富吉 ユライ村 平三良 落部村 又吉	国泰寺 真列大和尚 會裡 士端 玄東 宜全 等湖院 第八世 權大僧都 慈直 弟子 左京徳元 少武徳行 大白山善光寺 六世 願立大和尚 知事 称顯和尚 奥州喜多郡田名部縣佐井村 祥嚴山長福禪寺 縁比丘 現住 惠覚侯道 財喜捨之名利具于後勒石 長福寺 惠覚老 善護老 屋寺舍利 創建 石塔 欲安其中 予聞 盛衰 不堪 歎 喜 緣 語 以 嘉 雲 元履傳來 設利 羅 鶯 禪 護 此 德 極 奉 安 今 日 祥 嚴 下 處 劫 祈 降 衆 魔 現 任 東 蝦 夷 地 國 泰 禪 寺 謹 寄 山 沙 門 具 州 題 前 國 泰 香 園 海 禪 師 馳 名 於 相 之 鐘 會 拜 諸 山 所 秘 傳 牙 舍利 分 身 鎮 于 蝦 夷 見 心 諸 野 納 矣 遂 為 東 裝 連 登 鹿 山 拜 受 齋 持 來 度 與 湖 師 附 予 以 元 履 寺 舍利 報 兵 宗 嚴 於 是 石 道 貫 塔 以 秘 在 塔 中 而 得 傳 永 世 此 道 場 焉 善 助 緣 奏 斯 成 功 庶 幾 與 諸 善 信 明 謹 華 呢 同 願 禮 智 係 以 謹 語 口 一 願 舍 利 無 上 法 寶 國 泰 測 附 與 孤 老 日 告 十 方 等 和 清 操 建 石 浮 圖 換 耶 聖 子 童子 聚 妙 已 成 佛 道 金 口 宣 言 明 淨 應 報 說 經 應 劫 稱 讚 奈 爾 喜 捨 檀 信 共 誦 直 空 龍 大 讚 嘆 長 鎮 海 東 華 覺 如 宗 仰 祝 聖 躬 謹 誌 嘉 永 二 年 己 酉 七 月	20170612開根調査		
加州橋立 西出孫左衛門 積下				
願主 大佐井 金丸屋七右工門	尾道石工 山城屋惣八	奉納		尾道市教委2014 20150622開根調査
施主 野村治三郎 世話人(大坂)橋屋吉五郎		常夜塔 金毘羅大権現	町指定文化財	20170613開根調査
奥御國産御會所 大坂御仕送御用所 施主 御用達 野村治六郎 當所 惣番人中 運送船 神通丸庄兵衛		御神燈 海上安全		20170613開根調査
橋屋吉五郎 施主 大坂 橋屋四郎兵衛 世話人 安田彦兵衛 西村金之丞		漱盥	常光寺のものと同じ	20170613開根調査
橋屋吉五郎 施主 大坂 橋屋四郎兵衛 世話人 安田彦兵衛 西村金之丞		漱盥	海中寺のものと同じ	20170613開根調査
施主 野村治三郎 野村新八 運送船 大丸九専右衛門		常夜塔 先祖代々 徳院院繁山皇崇土堂位		20170613開根調査
施主 野村治三郎 野村新八 運送船 神通丸庄兵衛		常夜塔 先祖代々 徳院院繁山皇崇土堂位		20170613開根調査
小餅屋六兵衛 施主 加州橋立 同御連中 取次人 西村金之丞		本龍山		20170613開根調査
阿波屋清藏 長内屋善吉 木村屋庄藏 米澤屋百次郎 山崎屋長兵衛 瀧屋善五郎 瀧屋理兵衛 瀧屋善藏 中山屋彌右衛門 網屋清左衛門 銭屋八十吉 丸屋佐助 木村彌福松 関屋直次郎 池田屋吉助 白取基四郎 橋屋清左衛門 瀧屋勘兵衛 瀧屋敬藏 瀧屋兼藏 瀧屋勘助 銭屋善助 運送船 加州宮藏 實國丸八十吉		奉納		大榎2001 20170613開根調査
入内山観世普菩薩敬白 越前新保中村新兵衛			市指定文化財	三井2012 右山2012
松前福山城下泊川 心太屋善兵衛		奉納 御神燈		20170613開根調査
越前國新保浦山岸屋太兵衛			町指定文化財	三井2012 右山2012
越前國新保浦上林武兵衛			町指定文化財	三井2012 右山2012
願主 大坂 茨木屋和助 同所 地宝丸兵藏 同所 威徳丸互良兵衛 酒田 伊勢屋伊兵衛 塩飽 福藏丸平五郎 世話人 菊屋善左衛門		御神燈		20170529開根調査
[本殿側面・山側] 世話人 大坂 橋屋四郎兵衛・塩飽 豊島屋平五郎・菊屋善太郎 □本久左衛門 大正二年山田弥吉 山田登一 山田弥吉 角田吉□郎 世話方 戸沼治左衛門 塩屋理右衛門 塩屋理右衛門 塩屋忠右衛門 塩屋忠右衛門 敦賀屋金九郎 敦賀屋金九郎 塩屋治右工門 塩 屋治右衛門 竹屋傳次郎 塩屋治右衛門 塩屋治右衛門 竹屋傳次郎 塩屋治右衛門 竹屋傳次 郎 竹屋傳次郎 大塚屋甚八郎 加賀屋庄右衛門 世話人 塩飽 豊島屋平五郎・菊屋善太郎 大 坂 橋屋四郎兵衛 竹屋傳次郎 黒海源善 七戸宇二郎 七戸宇二郎 塩屋理右衛門 世話方 橋屋 弥八 加賀屋庄右衛門 大坂 網干屋直平 岩坂屋七良兵工 七戸宇三郎 同 五良右門 世話方 竹谷忠兵衛・森野藤兵衛 菊屋善太郎 菊屋善太郎 菊屋善太郎 菊屋善太郎 菊地 小市・菊屋六左衛門 同 松左衛門 紀國屋権兵衛 敦賀屋善太郎 若狭屋兼藏 七戸平吉 [本殿裏面] 築館庵助・工藤直世 西村屋治三郎 能登屋利三郎 小野佐右工門 山田屋新助 山 田屋新助 花田省庵 中原屋金平 長谷川仁太郎 鶴屋太左衛門 鶴屋多左衛門 高西三兵衛 三國屋久兵衛 折戸屋武兵衛 三國屋弥太郎 中島屋惣工門 網屋七郎右門 岩谷屋三郎 中 村又兵衛 中村又兵衛・対馬佐右衛門 黒瀧惣三郎 大坂 橋屋弥八 秋田屋善五郎 長尾屋次郎 九郎 能登屋勘左衛門 同人 前田兵藏 高屋内繁山 高屋内若菊 高屋内文路 折戸屋吉兵衛 伊勢屋久兵衛 [本殿側面・海側] 世話人 菊屋善太郎 塩飽 豊島屋平五郎 大坂 橋屋四良兵衛 原市良兵衛 前田 清藏 大坂 橋屋善八 敦賀屋金九郎 原市良兵衛 布屋和助 紙屋与吉 小野屋市良兵工 大坂 橋屋徳三郎 長尾与助 大坂 網干屋直平 大坂 大和屋和吉 山本善八 紙屋伊藏 大坂 大和屋 傳五郎 大坂 大和屋敬吉 大坂 網干屋平吉 大坂 坪屋重兵衛 大坂 大和屋重吉 大坂 □原屋 藏 □原伊兵衛 加茂良清吉 百足屋平右工門 野中与八郎 大坂 □屋和 □ 帯屋栄藏 大坂 □町 北國積木綿屋 豊島屋平五郎 古川屋惣兵衛 山本庄五郎 正可大神丸忠右工門 中畑屋 惣右工門 菊屋藤兵衛 西野久太郎 佐野兵藏 永井吉兵衛 板谷六右衛門 玉井忠四郎 尾 崎五左衛門 月次理兵衛 宮下五右衛門 尾崎庄兵衛 戸沼平兵衛 伊豆藤治郎 永井庄兵衛 西野久吉 森山佐兵衛 清野徳右衛門 菊地清助 加島長兵衛 山内弥五兵衛 三久二 半兵衛	長州赤間関 石工入 有光重兵衛	奉献	町指定文化財 海側13.7m 山側13.7m 社殿裏8.57m	北奥文化研究会創立 30周年記念誌刊行委 員会2011 20170529開根調査
大坂 天清屋平五郎		奉寄進		20170530開根調査
大坂 堺屋兵藏・堺屋五郎兵衛		奉寄進	昭和30年代の台風による枝の落下で破損	20170530開根調査
大坂願主 網干屋重藏・堺屋五郎兵衛・堺屋兵藏 塩飽願主 山本善九郎・山本善十郎 當所願主 上田屋勘四郎・小濱屋理右衛門・七戸屋吉藏・豊島屋平五郎・松田屋武兵衛・小濱屋幸右工門・越後屋庄右工門		奉寄進 鳥居海上安全	明治30年代の大 火の際の被熱と放 水で破損	20170530開根調査
左 [山に高] 願主 伊兵衛 寅或丸平兵衛 右 [山に高] 兵衛 嘉十郎		献燈		20170530開根調査
越後 宮川信心 松前 橋原 栄徳丸幸吉 積下		寄進	石段は19段 幅3m・長さ7.7m	20170530開根調査
越後 糺谷 車屋松太郎 秋田 樺村 佐藤重太郎 諸國 信心中 越後 板谷 春日丸松太郎 松前 橋原 栄徳丸 幸吉 下				20170530開根調査
取次世話人 當所 越後屋庄右工門 大坂 堺屋五郎兵衛 當所 願主 堀内弥右工門 七戸宇兵衛		奉寄進	町指定文化財一部 後補	20170530開根調査

表1-b 津軽・下北地方の近世海運関連石造物

番号	寺社等名称	所在地	種類	法量 (cm)			石材	奉納年
				高さ	幅	厚さ		
7a	脇野沢八幡宮	青森県むつ市脇野沢桂沢 18-1	石灯笼	(53)	(19)	(17)	笏谷石	文化3(1806)年1月吉日
7b	脇野沢八幡宮	青森県むつ市脇野沢桂沢 18-1	手水鉢	48	74	52	安山岩 (戸室石)	天保9(1838)年7月17日
7c	脇野沢八幡宮	青森県むつ市脇野沢桂沢 18-1	鳥居	345	465	30	花崗岩	安政5(1858)年5月吉日
8	曹洞宗祥岩山長福寺	青森県佐井村古佐井 112	佛舍利塔	472	210	210	花崗岩	嘉永2(1849)年7月
9	箭根森八幡宮	青森県佐井村八幡堂 37	狛犬	224	117	96	花崗岩	安政5(1858)年8月15日
10	浜町の常夜塔	青森県野辺地町野辺地 471地先	石灯笼	380	220	220	花崗岩	文政10(1827)年1月吉日
11	野辺地八幡神社	青森県野辺地町笹路 12	石灯笼	315	130	130	花崗岩	嘉永5(1852)年
12	浄土宗海中寺	青森県野辺地町寺ノ沢 38-1	手水鉢	68	106	49	花崗岩	弘化2(1845)年6月
13a	曹洞宗常光寺	青森県野辺地町寺ノ沢 86	手水鉢	68	106	49	花崗岩	弘化2(1845)年6月
13b	曹洞宗常光寺	青森県野辺地町寺ノ沢 86	石灯笼	290	112	112	花崗岩	天保4(1833)年4月3日
				290	112	112	花崗岩	嘉永3(1850)年6月27日
14	浄土真宗大谷派本龍山西光寺	青森県野辺地町寺ノ沢 90	手水鉢	70	100	50	花崗岩	年号なし
15	香取神社	青森県青森市大矢沢字里見 1233-2 (香取神社の旧所在地は青森市柳町)	狛犬	206	127	96	花崗岩	嘉永2(1849)年4月吉日
16	小金山神社	青森県青森市入内駒田 116-4	狛犬	67	22	53	笏谷石	寛文5(1665)年1月吉日
17	柳久保神社	青森県青森市浪岡大釈迦山田 189	石灯笼	(63)	30	30	輝石安山岩	安政5(1858)年8月
18a	今別八幡宮	青森県東津軽郡今別町大字今別字今別 19	狛犬	48	15	43	笏谷石	明暦4(1658)年6月15日
18b	今別八幡宮	青森県東津軽郡今別町大字今別字今別 19	狛犬	42	15	39	笏谷石	万治2(1659)年3月12日
19a	白八幡宮	青森県陸ヶ沢町本町 69	石灯笼	190	67	67	花崗岩	寛政6(1794)年3月15日
19b	白八幡宮	青森県陸ヶ沢町本町 69	玉垣	180	22	22	花崗岩	文化13(1816)年3月吉日
20a	真言宗醍醐派春光山円覚寺	青森県深浦町深浦浜町 275	狛犬形鏡子	12	6	8	笏谷石	慶長3(1598)年8月吉日
20b	真言宗醍醐派春光山円覚寺	青森県深浦町深浦浜町 275	手水鉢	50	55	44	花崗岩	寛延2(1749)年5月
20c	真言宗醍醐派春光山円覚寺	青森県深浦町深浦浜町 275	鳥居	不明	485	31	花崗岩	寛政8(1796)年1月吉日
20d	真言宗醍醐派春光山円覚寺	青森県深浦町深浦浜町 275	鳥居	不明	607	37	花崗岩	寛政10(1798)年1月吉日
20e	真言宗醍醐派春光山円覚寺	青森県深浦町深浦浜町 275	石灯笼	140	48	48	花崗岩	文化5(1808)年3月10日
20f	真言宗醍醐派春光山円覚寺	青森県深浦町深浦浜町 275	石段	60	24	24	花崗岩	安政6(1859)年1月
20g	真言宗醍醐派春光山円覚寺	青森県深浦町深浦浜町 275	石橋	31	240	76	花崗岩	万延2(1861)年3月吉日
21	武蔵権神社	青森県深浦町岩崎字浜野	鳥居	330	460	29	花崗岩	寛政10(1798)年1月吉日

の石灯笼まで、百年以上にわたって二六例を確認しており、それらの銘文から、少なくとも豊高（一七六〇年代？）九〇年代・豊昌（一八〇〇年代）、昌興（一八一〇年代―？）、明尊（一八六〇年代前後）の四名が歴代にわたり新三郎を襲名していたと考えられる（関根二〇一七）。

大畑八幡宮にある安政六年（一八五九）銘の石灯笼と文久元年（一八六一）銘の狛犬は、年代的にみてもどちらも明尊の作品の可能性が高い。なお、大阪府寝屋川市大利町の大利神社にある明治二年（一八八八）年銘の狛犬基壇の銘（寝屋川市史編纂委員会二〇〇六）から、御影屋新三郎の家系は明治以降、飯田新三郎を名乗ったとみられる。

小島屋半兵衛は大坂西横堀新渡辺橋西詰を本拠とする。管見によれば、小島屋半兵衛の作品としては、高野山奥之院にある元禄二年（一六九八）銘の奥州二本松藩二代藩主丹羽長次の櫛型墓碑や、大阪府茨木市目垣一丁目の佛照寺にある水盤（天岸前掲）が最も古い。小嶋屋半兵衛の作品は、奈良県橿原市小網の入鹿神社にある安政四年（一八五八）銘の狛犬（仲一九九九）まで、大阪府と奈良県内を中心に約一六〇年間に四三例を確認しており、歴代にわたり同じ名前を襲名していたと考えられる（関根二〇一七）。

佐井村箭根森八幡宮にある安政五年（一八五八）銘の花崗岩製狛犬（9）を手掛けた尾道石工の山城屋惣八の作品は、文政四年（一八二二）から明治十五年（一八八二）まで六五点が確認されており、年代も幅があることから、代々同じ名前を継承している可能性が指摘されている（尾道市教育委員会二〇一四）。山城屋惣八は安政から慶應にかけて多くの狛犬の製作を手掛けている。惣八の作品は地元尾道では二点しか確認

されておらず、岡山・山口、新潟に多く遺されている。

恐山にかつて存在し、現在は崩壊のため滅失してしまった笏谷石製の大石灯笼（4e24）に刻まれていた「石工 越前福井 井上市右工門」は、富山県滑川市の榎原神社にある文化二年（一八〇五）銘の笏谷石製の狛犬（三井二〇一二）を製作した「越前福井石坂町井上市右工門孝紀」と同一人物であろう。

鱈ヶ沢町白八幡宮の花崗岩製玉垣（19b）を手掛けた長州赤間関の石工人有光重兵衛、脇野沢八幡宮の戸室石製手水鉢（7b）を手掛けた金沢藩の御扶持人石工浅野権三郎・同権右工門、恐山道丁石（一二三丁）を手掛けた石匠音松亀吉については、残念ながら詳細不明である。

三 石造物にみる地域間交流

本稿で取り上げた石造物には、石造物の奉納に関わった施主・願主・世話人の居住地、運搬を担った積船の船籍地、石工の居住地などの地名が刻まれている。ここではその中から広範囲な地域間の結びつきを示す資料として注目される、恐山菩提寺の石灯笼、佐井村長福寺の仏舍利塔、鱈ヶ沢町白八幡宮の玉垣を取り上げ、願主や世話人の居住地や石造物を運んだ船の船籍地に基づき、海運による地域間の交流の実態を検討する。

（一）むつ市恐山菩提寺の石灯笼

恐山にある曹洞宗伽羅陀山菩提寺の山門から本堂向かう参道に沿って

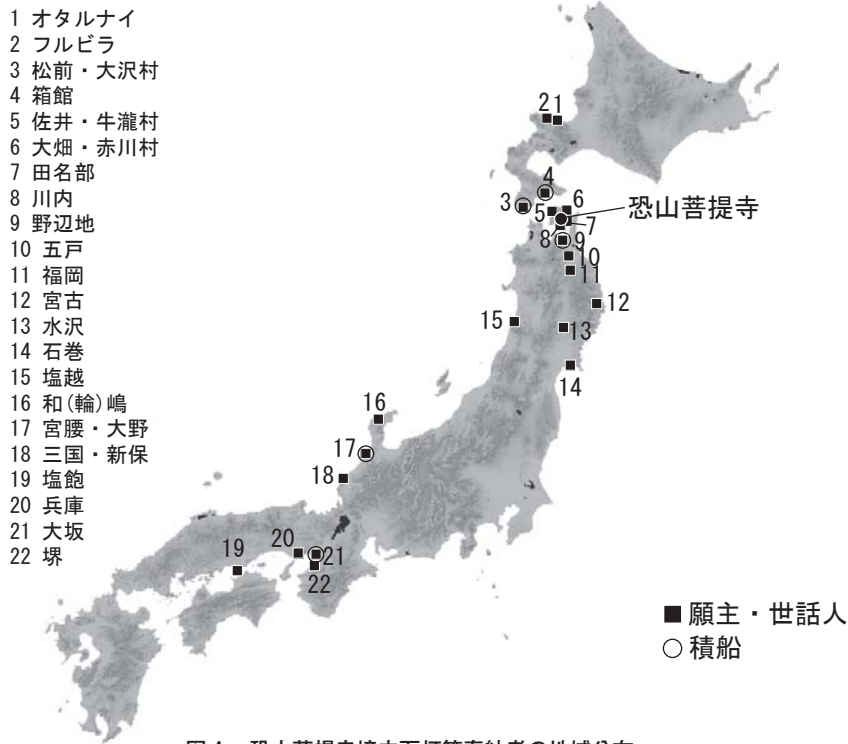


図4 恐山菩提寺境内石灯笼奉納者の地域分布

並ぶ四八基の石灯笼は、嘉永元年（一八三九）六月・嘉永二年六月・弘化三年（一八四六）六月に建てられたもので、奉納に関わった施主・願主・世話人の居住地や、石灯笼を運搬した積船の船籍を記したものが四一基ある（4e）。年代・石材別の内訳は、嘉永元年は花崗岩製三基、嘉永二年は花崗岩製一三基、弘化三年は花崗岩製一六基・輝石安山岩製五基、年代不明は笏谷石製一基・花崗岩製二基・輝石安山岩製一基である。

これらの石灯笼の施主・願主・世話人は、松前の商人が最も多いが、北は北海道日本海側のオタルナイ・フルビラから西は讃岐塩飽まで広範囲に分布している（図4）。このうち日本海沿岸の羽後塩越・能登輪島・加賀宮腰・大野・越前三国・新保や瀬戸内の讃岐塩飽・摂津兵庫・大坂・泉州堺は、北前船の寄港地である。太平洋側で盛岡藩領の野辺地・五戸・福岡・宮古と仙台藩領の水沢と石巻が確認できた。

四一基中二九基の石灯笼に運搬船名が記されている。最も多いのが箱館の山本氏の手船豊栄丸で一九例、次いで讃岐丸亀の橘屋（尾上）吉五郎所有の大坂船籍松寿丸が五例、他に加賀大野の丸屋武平の寶吉丸と松前の伊達林右衛門の手船正徳丸が各二例、野辺地の野村治三郎の手船神通丸が一例である。なお、橘屋吉五郎は、野辺地町の花崗岩製常夜塔（11）には世話人として、同じく野辺地町の海中寺と常光寺の花崗岩製手水鉢には施主として名前を確認することができる。

恐山菩提寺の石灯笼は、下北が東と西の海運の交差点であることや、恐山が海運関係者の信仰を集めていたことを物語っている。

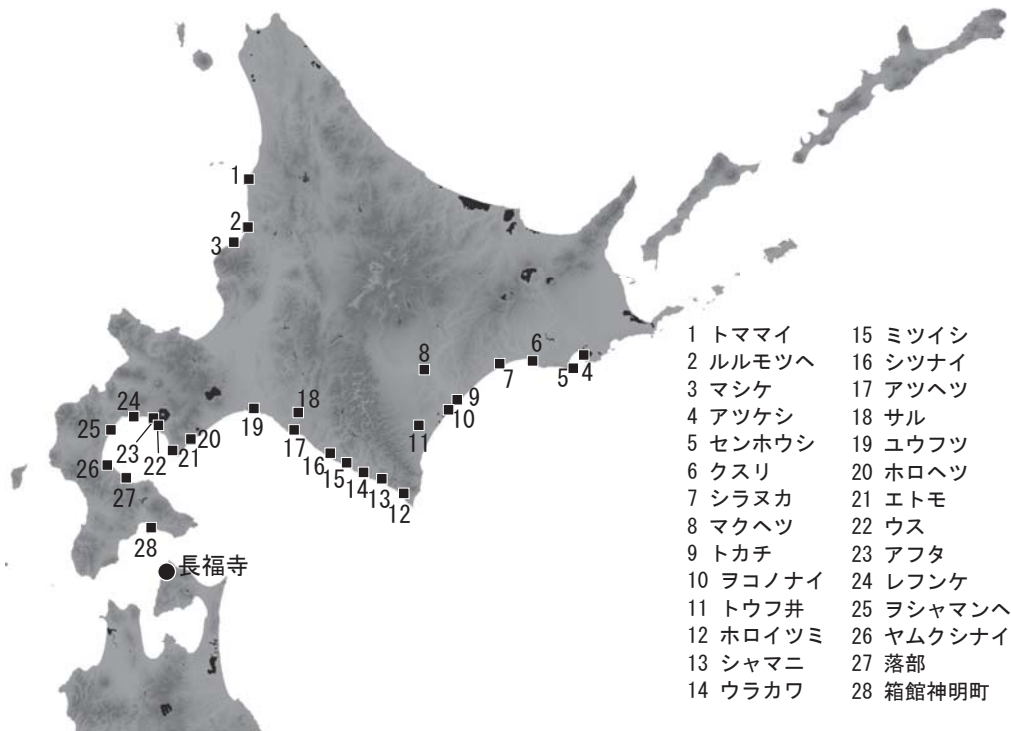


図5 下北佐井長福寺佛舍利塔奉納者の地域分布

(二) 佐井村長福寺の仏舍利塔

佐井村古佐井の曹洞宗祥岩山長福寺にある嘉永二年（一八四九）銘の花崗岩製仏舍利塔（8）は、蝦夷三官寺の一つ厚岸町の臨済宗南禅寺派景雲山国泰寺にある天保一三年（一八四二）に松前の石工二代目長松と箱館の石工二代目善七によって製作された花崗岩製仏舍利塔（関根二〇一三）と石材・形状・銘文が類似している。³⁾

長福寺の仏舍利塔の造営には、アツケシ（厚岸町）からヤムクシナイ（八雲町山越内）に到る東蝦夷地の二三ヶ所もの場所の会所や運上屋の関係者をはじめ、西蝦夷地のトママイ（苫前町）・ルルモツヘ（留萌市）・マシケ（増毛町）の運上屋や会所の関係者などが関わっている（図5）。

一八四〇年代に建てられた長福寺の仏舍利塔と国泰寺の仏舍利塔は、東蝦夷地の会所や運上屋で働く和人たちが下北―箱館―厚岸を結ぶ海路によって相互につながりを持っていたことを示している。

(三) 鱒ヶ沢町白八幡宮の玉垣

文化一三年（一八一六）の年号を有する鱒ヶ沢町白八幡宮の花崗岩製玉垣（19b）の造営には、多数の大坂商人の名前に交じって、海運関係者とみられる塩飽の人名、長州赤間関の石工人の名前が刻まれている。白八幡宮の玉垣は、西廻り航路により鱒ヶ沢が下関・瀬戸内を経由して大坂と直結していたことを物語っている（図6）。

まとめ



図6 鯉ヶ沢白八幡宮玉垣の奉納者・石工の地域分布

本稿では、青森県津軽地方と下北地方で確認した近世海運関連石造物を取り上げ、海運の歴史的展開と海運による地域間の結びつきを検討した。その結果、松前三湊と日本海沿岸の湊町を繋いだ近世日本海海運は、一七九〇年代に急速に発展し、一八四〇・五〇年代にピークを迎えたのち一八六〇年代には低迷期に入った可能性が見えてきた。こうした傾向は、松前・江差、越前三国・敦賀、若狭小浜で行った近世墓標調査結果とも整合している。一九世紀の日本海海運は、北前船と呼ばれる荷主と船主が同一の買積船によって特徴づけられる。北前船に関しては分厚い研究の蓄積があり、その捉え方には人によって差がみられるが、江戸時代よりもむしろ明治時代に入ってからより一層活動が活発化したという点では意見が一致している（牧野一九六四、中西二〇〇九）。しかし墓標に刻まれた死者数からみて、上述の湊町では幕末に人口減少が起きていた可能性が高い。安政の開国に伴う箱館・新潟の開港は、日本海交易にも多大な影響を及ぼしたと考えられる。幕末には、北前船の寄港地の中で開港地に選ばれた箱館と新潟だけが突出した「勝ち組」となり、他の湊町のなかにはこの二つの巨大な交易港に食われる形で衰退するところも出てきたと推測される（関根二〇一八a）。

海運による地域間交流に関しては、下北が西廻り航路と東廻り航路が交差する場所であるとともに、松前や箱館を介して東蝦夷地や西蝦夷地に設けられた場所と強い結びつきを持っていたことが再確認できた。

本稿で取り上げた海運石造物は、近世史を語る上で重要な歴史資料であり、できる限り文化財指定を進め保護していくことが望まれる。

本稿を草するにあたり現地調査において、佐井村長福寺・深浦町円覚

寺をはじめとする寺社ならびに、鱈ヶ沢町教育委員会の中田書矢氏・むつ市教育委員会の森田賢司氏にお世話になった。末筆ではありますが深く感謝申し上げます。

註

(1) 例えば、青森県内には一六五〇～一六〇年代の紀年銘を有する笏谷石製狛犬として、今別八幡宮(明暦四年・万治二年)・青森市金峰神社(寛文二年)・弘前八幡宮(寛文二年)・弘前市多賀神社(寛文四年)・青森市熊野宮(寛文五年)・青森市小金山神社(寛文五年)の七例が知られている(石山二〇一二)。このうち本論では、他地域の地名を有する今別八幡宮の二例と小金山神社例のみを取り上げた。

(2) 山城屋惣八の作品のうち『尾道の石造物と石工』に掲載されていないものに、新潟県村上市塩谷塩竈神社の慶應二年(一八六六)銘花崗岩製狛犬がある(関根二〇一八b)。

(3) 国泰寺の仏牙舍利塔の台石には、山田文右衛門・福嶋屋(杉浦)嘉七・藤野(柏屋)喜兵衛などの蝦夷地の場所請負に関わった箱館や松前の有力商人四名、場所詰の松前藩士五四名、製作にあたった石工二名、船乗り一三名の名前が記され、さらにトカチ領二三名、クスリ領二五名、アッケシ領五五名、子モロ領七四名、クナシリ領九四名、エトロフ領五二名、合計四三三名もの人々が造立に関わったことが刻まれている。国泰寺の仏牙舍利塔は、クナシリ・メナシの戦いから半世紀を経て、この地域への和人の進出が官民ともに加速するとともに、国泰寺が彼らの精神的拠り所として機能していたことを物語っている(関根二〇二三)。

引用・参考文献

- 天岸正男 一九七九 「大坂三郷の石工」『歴史考古学』三 一五～二七頁、歴史考古学研究会
- 石山晃子 二〇一二 「海運がもたらした北陸文化―笏谷石とその周辺―」『北前船と津軽西浜』三二～四四頁 鱈ヶ沢町古文書学習会
- 伊東信 二〇一二 「深浦町における笏谷石造物」『北前船と津軽西浜』八四～九〇頁 鱈ヶ沢町古文書学習会
- 尾道市教育委員会 二〇一四 『尾道の石造物と石工』尾道市文化財調査報告書
- 樫本慶彦 二〇一四 『北前船と尾道湊との絆』文芸社
- 木越隆三 二〇〇一 『錢屋五兵衛と北前船の時代』北國新聞社
- 澤田光夫 二〇〇一 「恐山参詣と丁塚」『むつ市文化財調査報告』二八～一七～二八頁 むつ市教育委員会
- 関根達人 二〇一三 「近世石造物からみた蝦夷地の内国化」『日本考古学』三六 五九～八四頁 日本考古学協会
- 関根達人 二〇一七 「近世石工の基礎的研究―高野山奥之院と住吉大社―」『人文社会科学論叢』三一～三二頁 弘前大学人文社会科学部
- 関根達人 二〇一八a 『墓石が語る江戸時代―大名・庶民の墓事情―』歴史文化ライブラリー四六四 吉川弘文館
- 関根達人 二〇一八b 「日本海沿岸域における近世石造物の流通―石工銘資料に基づいて―」『葬送・墓・石塔』(現在印刷中)
- 関根達人編 二〇一二 『松前の墓石から見た近世日本』北海道出版企

画センター

関根達人編 二〇一三 『函館・江差の近世墓標と石造物』平成二二年度～二五年度科学研究費補助金基盤研究(A)「中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究」研究成果報告書

関根達人編 二〇一六 『越前敦賀湊の中近世石造物』平成二六年度～

三〇年度科学研究費補助金基盤研究(A)「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」研究成果報告書2

全国北前船研究会 二〇一六 『北前船にかかる論考・考察集』全国北前船セミナー開催三〇周年記念

立花勇 一九九一 「恐山大湊街道三十三観音について」『むつ市文化財調査報告』一五 七五～八五頁 むつ市教育委員会

富岡一郎 一九八一 『下北地方史話』青森コロニー印刷

仲芳人 一九九九 「奈良県の近世石造狛犬」『歴史考古学』四四 二八～四一頁 歴史考古学研究会

中西聡 二〇〇九 『海の富豪の資本主義』名古屋大学出版会

鳴海健太郎 一九七七 『下北の海運と文化』北方新社

寢屋川市史編纂委員会 二〇〇六 『寢屋川市史』二

能生ふるさとサークル 二〇一五 『糸魚川沿岸地域の備後尾道石工の石造物と能生地区の回船』

北奥文化研究会創立三〇周年記念誌刊行委員会 二〇一一 『石に刻まれた歴史―西北地方の記念碑―』

牧野隆信 一九六四 『北前船』柏書房

三井紀生 二〇〇六 『越前笏谷石 続編』福井新聞社

三井紀生 二〇二二 「中・近世における越前狛犬の特徴と地方進出について」『若狭郷土研究』五七―一 一～二五頁 福井県郷土誌懇話会

むつ市史編さん委員会 一九八六 『むつ市史 民俗編』

脇野沢村史調査団 一九八三 『脇野沢村史 民俗編』脇野沢村役場

(せきね・たつひと 弘前大学人文社会科学部教授)